

地域とつながる

まちづくりセミナー&交流会

2026年2月12日(木) QUINTBRIDGE (クイントブリッジ)

2050年を目標とした大阪全体のまちづくりの方向性を示す「大阪のまちづくりグランドデザイン」の推進に向けて、現在進められている市町村等の具体的な取組を紹介することで、まちづくりへの参画促進につなげることを目的として「まちづくりセミナー&交流会」を2月12日に大阪市都島区のQUINTBRIDGE(クイントブリッジ※)で開催しました。

大阪のまちづくりに関心のある民間の事業者や様々な企業とつながりのある金融機関や、地域に根差した取組や新たなビジネス展開を進める方々などを対象に、大学教授による基調講演と自治体による「大阪のまちづくり紹介」を行いました。その後、共創の出会いの場となる交流会を開き、会場に設置した「市町村等まちづくり紹介ブース」でまちづくりの取組を紹介いただきました。

※NTT西日本が運営するオープンイノベーション施設

プログラム

- 13:00~ 開場・受付開始
- 13:30~
 - ・QUINTBRIDGEの紹介 (QUINTBRIDGE事務局)
 - ・開会のあいさつ (大阪都市計画局)
 - ・本日のプログラム説明 (大阪都市計画局)
- 13:45~ **まちづくりセミナー**
 - ◆基調講演
 - 「共創による持続可能な大阪のまちづくり」
 - 講師：松岡 聡氏 近畿大学建築学部建築学科 教授
- 14:25~ 休憩 (「まちづくり紹介ブース」での発信も実施)
- 14:40~ ◆「大阪のまちづくり紹介」

- ① 茨木市
「中央公園の官民連携によるリニューアル
～おにグルから広がる共創のまちづくり～」
都市整備部都市政策課/建設部公園緑地課
 - ② 守口市
「守口市駅北側エリアリノベーション戦略」
企画財政部まちづくり戦略課
 - ③ 泉南市
「西信達小学校跡地活用によるにぎわいづくり」
公共施設再編室公共施設再編課
- <情報提供>
- 堺市
「共創で進める質の高い都市開発」
建築都市局都市計画部都市計画課
 - 大阪都市計画局
「夢洲第2期区域のまちづくり」
拠点開発室広域拠点開発課
 - 大阪府商工労働部
「大阪府の企業立地優遇制度について」
成長産業振興室国際ビジネス・スタートアップ支援課

- 16:00~ **まちづくり交流会**
「市町村等まちづくり紹介ブース」において、共創に向けた交流会を開催。(上記まちづくり紹介の各市等及び、能勢町、河内長野市、彩都建設推進協議会、藤井寺市、阪南市、大阪府都市整備部)
- 17:00 終了



受付の様子



セミナーの様子



QUINTBRIDGEの紹介
NTT西日本 下川氏



開会のあいさつ
大阪都市計画局 尾花氏

◆ 基調講演

「共創による持続可能な大阪のまちづくり」

講師：松岡 聡氏 近畿大学建築学部建築学科 教授



松岡 聡氏

近畿大学建築学部建築学科教授の松岡聡氏が講師として登壇。共創の観点から人々の連携による地域課題の解決や、新たな価値創造に取り組むまちづくりについて、長年取り組まれている「都市アーキビスト会議」における活動の蓄積と経験を踏まえながら講演いただきました。

今日のこの講演のキーワード「共創」は、成功事例の説明ではなくプロセスの話で、計画と日常のずれをどう埋め直すかについて、実践的に取り組んでいる、東大阪市と白浜町のまちづくりを紹介しながらお話しします。

▶ 東大阪市 長田・荒本エリア

～物流のまちが、人の居場所があるまちへ～

このエリアは、物流と人々の生活の場が緩衝なしで衝突しています。インフラは充実していますが、働きやすさの評価は低調で、まちの立地と便利さの実感が一致していません。象徴的なのが、公園に対する不満がないという調査結果です。これは公園が充実しているからではなく、ワーカーたちの意識が公園に向いていないことを示唆しています。つまり、リフレッシュ環境の不足を認識しつつも、あきらめているかのようです。

ワーカーだけでなく住民が求めているのは「生活の拠り所」です。しかし、そこにあるのは重層的なインフラと巨大な倉庫群で、道路や高架、駐車車両といったモノが、人の移動と滞留を阻害しています。

ここで提案するのは、「分散型プレイスメイキング」です。大きな拠点を作るのではなく、まちの既存の建築や空間の中に、人が関与できる小さな点を積み重ねていく方法です。このエリアでは、公園を住民の「居場所」にすることで。社会実験として隔週で同じ場所にコーヒースタンドを出しています。それだけの小さな試みですが、決まった時間に決まった行為が繰り返されるこ



基調講演の様子

▶ 和歌山県 白浜町

～「負の遺産」を「価値ある場所」に転換～

白浜には、かつての華やかなリゾートの面影とともに、役目を終えて廃虚化した建物や誰も使わなくなった場所が点在しています。これらは通常「負の遺産」とみなされますが、私たちは、これらを地域の歴史や個性が凝縮された「新しい資源」として捉え直す「ポストリゾート」という視点を持ち込みました。

「SHIRAHAMA GO」という取り組みは、白浜特有の複雑な「地形」そのものをまちの主役として捉える試みです。単なる坂道や段差を移動の障害ではなく、まち歩きの楽しみに変えていくという手法です。

こうした発見を「ガイドブック」としてまとめ、白浜のお店に置いてもらいました。まちの見慣れた風景が、実は面白いという新しい共通認識が生まれ、廃虚や何気ない裏道が誰かに語りたくなる「価値ある場所」へと公式に書き換えられていくと思います。

これは、「共創」の回路づくりのひとつで、モノをきっかけに人を巻き込み、圧倒的に特徴のあるモノを集め、それを軸に共創のきっかけ、回路づくりとして捉えていくことが大切です。

まとめ

共創は、「まちをどう読むか」という視点を更新し続けることが重要です。まちの資源は、古びて見えても、愛着を持って見つめ直すことで新しい解釈やつながりが生まれます。モノや人が発する小さな声にも伴走するようフィールドワークのループを動かす小さな試みを繰り返しながら、共創のまちづくりを進めることが都市計画においては、大変重要なことだと考えます。

◆「大阪のまちづくり紹介」

茨木市

「中央公園の官民連携によるリニューアル ～おにクルから広がる共創のまちづくり～」

茨木市のまちなか(中心市街地)では、文化・子育て複合施設「おにクル」の整備を契機にパークエリアから各事業が連携・連動した、面的に広がるまちづくりを展開しようとしています。1期整備の「おにクル」では徹底した市民参加プロセスの積み重ねで多様な活動が行われ、年間約200万人が来館するなど、新たなにぎわいを見せています。そのにぎわいを広げていくべく、2期整備として「中央公園のリニューアル」に取り組んでいます。

整備にあたっては、官民連携事業として公募設置管理制度(Park-PFI)や指定管理者制度を活用し、魅力ある公園の整備を目指しています。整備コンセプトは様々な人・過ごし方が、緩やかに空間・時間を共有できる場所であり、人やアクティビティをつなげていくという「share to link(シェアとリンク)」の考え方のもと、民間事業者や市民との共創により、「ひと中心のまちなか」に向けた新たな公園づくりにチャレンジしたいと考えています。



都市整備部都市政策課 杉浦氏 /
建設部公園緑地課 佐野氏

リンク



守口市

「守口市駅北側エリアリノベーション戦略」

本戦略は、守口市駅北側エリアを対象とし、市内外の人々を惹きつける都市の顔づくりを進めるとともに、守口の魅力と出会う機会を創出し、都市イメージの向上につなげることを目指すものです。既存の建物や歴史資源、公共空間などのストックを活かしながら、小さな取組を積み重ねることで段階的にエリアの価値を高めていく方針です。

旧市役所本庁舎跡地にはイオンタウン守口とマンションが整備され、にぎわいと利便性が向上しています。豊秀松月線では歩行者中心の空間形成を検討し、文禄堤沿いの旧徳永家住宅は「燈森(ともり)」として民間活用を進め、貸農園やイベントにより交流拠点となっています。令和3～5年度には社会実験「守口さんぽ」を行い、回遊性向上や滞在機能を検証しました。さらに、令和5年度からは公民連携によるエリアプラットフォーム会議を開催し、関係者間の情報共有と連携強化を図っています。社会実験で得られた成果や意見を検証しながら、段階的に施策を展開しています。

また、旧桜町団地についても整備可能性調査を実施するなど、今後も守口市駅北側エリアの価値向上に向け、継続的かつ実践的に取組を推進します。



企画財政部
まちづくり戦略課
相原氏

リンク



泉南市

「西信達小学校跡地活用によるにぎわいづくり ～にぎわいが創出される生活拠点の形成～」

泉南市は、歴史的資源等、地域の資源を保全・活用しながら、4つの鉄道駅や市役所周辺を核として、公共施設などの最適化を図り、都市機能や居住を誘導するとともに、自然環境と多様な都市機能が調和した土地利用により、生活利便性の高いコンパクトな都市構造の形成を目指しています。令和5年3月に策定した泉南市立小中学校再編計画の第I期で西信達中学校と西信達小学校を統合し、西信達中学校敷地などに西信達義務教育学校(仮称)を現在建設中です。現・西信達小学校は、南海本線岡田浦駅に隣接していることから、同小学校移転後の跡地を有効活用することで多世代間の住民が交流し、にぎわいが創出される岡田浦駅周辺地区の生活拠点形成を目指しています。再編のための方向性としては①賑わいのある生活拠点創出②だれもが安全・安心に過ごすことができる住環境の形成③災害に備えた地域防災力の向上の3つとしており、整備コンセプトは地域と連携し、地域ニーズに即した駅前再編です。事業の実現には市民、大阪府及び関連企業との協働が必要不可欠であり、学校跡地整備と岡田浦駅および周辺道路などのバリアフリー化との一体整備など、一体的な周辺環境の整備を推進します。



公共施設再編室
公共施設再編課
奥野氏

リンク



堺市

「共創で進める質の高い都市開発」

堺市では、容積率緩和制度を活用し、民間投資を促す取組として「持続可能性とエリア価値を高める都市機能誘導方針」を4月から運用開始する予定です。堺市都市計画マスタープランの“めざすべき都市像”実現に向け、計画的で質の高い都市開発を促進し、市街地環境の整備・改善と都市機能の向上をめざします。

対象は都心エリアのほか、中百舌鳥、泉ヶ丘など、堺市立地適正化計画において設定した都市機能誘導区域で、指定容積率を超える部分について緩和上限を設定し、誘導施設の導入、質の高い緑や歩行・滞留空間の確保、防災性能向上などの取組内容に応じて評価を段階的に加算し、容積率緩和をインセンティブとして付与します。持続可能で魅力ある拠点形成に向け、民間事業者の積極的な参画を期待します。



建築都市局
都市計画部都市計画課
久保氏

リンク



大阪都市計画局

「夢洲第2期区域のまちづくり」

夢洲は大阪港に位置する約390haの埋立地で、第1期区域ではIRの整備が進行中です。万博跡地となる約50haの第2期区域では、「夢洲まちづくり構想」、「夢洲まちづくり基本方針」を踏まえ、国際観光拠点形成をめざしたまちづくりを進めています。2024年9月に開始した「夢洲第2期区域マスタープラン策定に向けた民間提案募集」では、2件の優秀提案を決定し、これらを参考に、2025年4月にまちづくりの方針となる「夢洲第2期区域マスタープランVer.1.0」を策定。同年10月には、万博レガシーに関する記載内容を更新した「同マスタープランVer.2.0」を策定しました。まちづくりのコンセプトを「万博の理念を継承し、国際観光拠点形成を通じて『未来社会』を実現するまちづくり」とし、まちづくりの方針を「エンターテイメントシティの創造」などとしています。また、万博レガシーの継承として、大屋根リングや静けさの森の樹木を利活用する方針としています。今後、大屋根リングの利活用に関する検討結果などを踏まえ、「同マスタープランVer.3.0」を策定し、その後、第2期区域の開発事業者募集を開始する予定です。



拠点開発室
広域拠点開発課
柿木氏

リンク



大阪府商工労働部

「大阪府の企業立地優遇制度について」

大阪府では、ライフサイエンス・新エネルギー分野の集積を目的に「成長特区税制」を運用し、特区内に立地する企業に対し、不動産取得税や法人関係税を最大ゼロとする優遇措置を設けています。区域は彩都から関西国際空港周辺まで広範囲で、中之島クロスも新たに指定されています。中小企業向けには、工場・研究所等の新增築時に不動産取得税を2分の1(上限2億円)軽減する「産業集積促進税制」や、1億円以上の投資に対する最大3,000万円の補助制度を用意しています。これら3制度は現在見直しを検討中です。

また、外資系企業が大阪府内に本社機能を移転する場合、家屋取得で最大1億円、賃借で最大6,000万円の補助を設けています。国の制度としては、地方移転企業への「地方拠点強化税制」や、地域経済牽引事業者に対する優遇措置を定める「地域未来投資促進法」があり、大阪府は府制度と国制度を組み合わせることで企業立地を後押ししています。



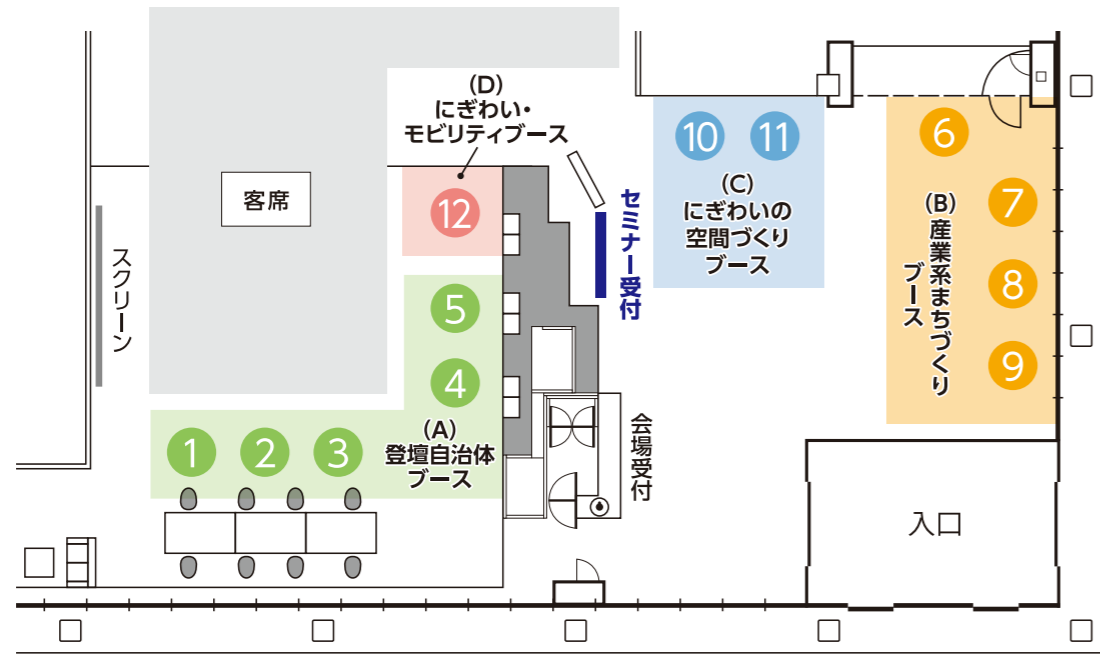
成長産業振興室
国際ビジネス・
スタートアップ支援課
仲平氏

リンク



◆まちづくり交流会

ブース配置図



(A) 「大阪のまちづくり紹介」登壇自治体ブース

- ① 茨木市……………「中央公園の官民連携によるリニューアル～おにクルから広がる共創のまちづくり～」
- ② 守口市……………「守口市駅北側エリアリノベーション戦略」
- ③ 泉南市……………「西信達小学校跡地活用によるにぎわいづくり」
- ④ 堺市……………「共創で進める質の高い都市開発」
- ⑤ 大阪都市計画局……………「夢洲第2期区域のまちづくり」

(B) 産業系まちづくりブース

- ⑥ 大阪府商工労働部……………「大阪府の企業立地優遇制度について」
- ⑦ 能勢町……………「時代に合った地域の魅力を引き出す土地利用～宿野四区・大里・柏原地区のまちづくり～」
 大阪市・京都市・神戸市のほぼ中央に位置する立地と里山資源、新名神高速道路の交通利便性を活かしたまちづくりに取り組んでいる。企業立地促進のための、土地区画整理事業の実施に向けた取組を紹介。
- ⑧ 河内長野市……………「新規幹線道路整備と合わせた大規模産業用地の創出」
 新たな広域ネットワーク道路として整備される都市計画道路大阪河内長野線等の沿道にて、土地区画整理事業により創出される新たな大規模産業用地を紹介。
- ⑨ 彩都建設推進協議会……………「彩都のまちづくり」
 新名神高速道路等に近接するなど交通アクセスに優れ、ライフサイエンス関連施設、データセンター、物流、製造工場等の施設が集積している彩都において、令和8年度末に創出される大規模産業用地について紹介。

(C) にぎわいの空間づくりブース

- ⑩ 藤井寺市……………「まちの課題にコミットする藤井寺エリアデザイン」
 藤井寺一番街商店街を活動拠点とした、産学共創プラットフォーム『四天王寺大学「エリアデザイン・ラボ」』を紹介。
- ⑪ 阪南市……………「南海尾崎駅周辺のまちづくり」
 歩く文化の形成を核に、市民主導で生活サービスやコミュニティが持続し、賑わいが生まれるまちづくりを紹介。

(D) にぎわい・モビリティブース

- ⑫ 大阪府都市整備部……………「南河内新モビリティプロジェクト」
 万博レガシーとして南河内地域で実施する自動運転バスの実証実験の取組を紹介。

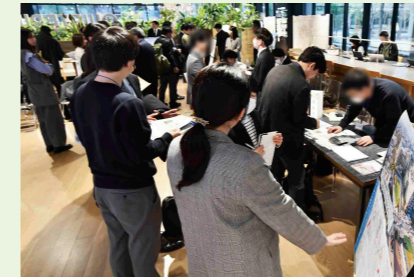
「大阪のまちづくり紹介」登壇自治体ブース



泉南市



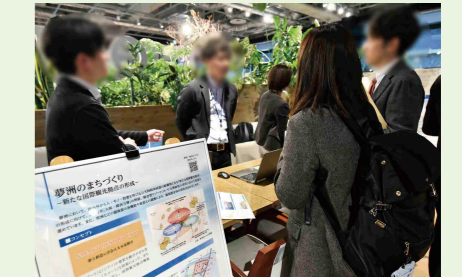
守口市



茨木市



堺市



大阪都市計画局

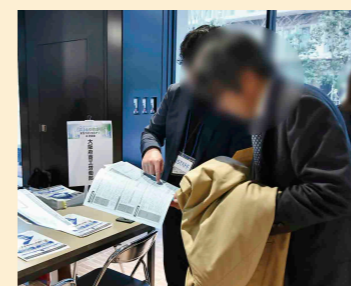
産業系まちづくりブース



能勢町



彩都建設推進協議会



大阪府商工労働部



河内長野市

にぎわいの空間づくりブース

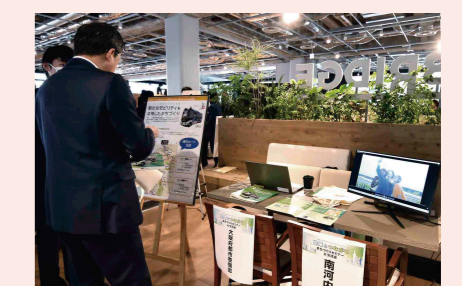


藤井寺市



阪南市

にぎわい・モビリティブース



南河内地域 (大阪府都市整備部)